

# 校正ノート

Proofreading note

No.30  
2017.4

Konan 桜木町のオフィスを運営する  
会社・工場：栃木県鹿沼市緑町3-8-33  
TEL:0289)62-4141代  
「デザイン部 校正担当／中里(内線301)  
制作／田村(内線305)  
大橋(内線304)

Konan

## レトリック① 枕詞・対句・掛詞

レトリック(修辞法)とは、文章の効果を高めるために明確かつ適切に美しく表現し、文章にふさわしい構成を与える技法のことで、日本では特に韻文において、枕詞・対句・掛詞・縁語序詞などの技法が発達している。古典を読むとこれらの技術を尽くした豊かな表現に数多く出会い読むのに難儀をするが、その雅びなまた流麗な文章に連綿と続く日本人の心性にかえつて新しい言葉の感性を得ることができるよう思う。

### 枕詞

文意全体とは無関係に特定の語について修飾または口調を整えることば。普通は五音。

〈例〉あしひきの…「山」にかかる

あしひきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜をひとりかも寝む

百人一首・柿本人麻呂

ひさかたの…「光」にかかる

ひさかたの光のどけき春の日に静心なく花の散るらむ

百人一首・紀友則

たらちねの母にかかる

たらちねの母が手離れかくばかりすなきことはいまだせなくに

「万葉集」読み人知らず

(母の手を離れてから、こんなに切ない思いをしたことはまだありませんのに)初めての恋のせつなさ)

### 対句

語の並べ方を同じくし、意味は対になる二つ以上の句を連ねて表現する。

〈例〉・万丈の山、千仞(せんじん)の谷

・朝に道を聞かば夕べに死すとも可なり

・金の切れ目が縁の切れ目

・歌(そばだ)つものは天を指(ゆびさ)し、伏すものは波にはらばふ(奥の細道)

・風雜(まじ)へ雨降る夜の雨雜へ雪降る夜は……

・父母は飢え寒(うい)ゆらむ妻子(めこ)どもは吟(によ)び泣くらむ……

などと、山上憶良の「貧窮問答歌」は随所に対句が使われている。

### 掛詞

同音異義語を利用して、一語で二語以上の意味を兼ね表す。

〈例〉・花の色は移りにけりないたづらに我が身世にふるながめせし間に

ふる 「経る」：月日が経過する、と「降る」の両意を兼ねる

ながめ 「眺め」：ほんやりとする、と「長雨」の両意を兼ねる

表に、桜の花の色香があせていく嘆きを詠み、裏には、自分の衰えていく容色を悲しむ気持を詠む。

・大江山生野の道の遠ければまだ踏みも見ず天の橋立

「生野」(いくの)地名と「行く野」を、「踏み」と「文(ふみ)」を懸ける

表の「生野の道が遠いのでもまだ天の橋立を踏んだことがありません」の意の裏に、「行く野の道が遠いので、まだ(天の橋立のほうにいる母からの)文(手紙)は見ていません」という意が含まれる。小式部内侍の母は、和泉式部。

## word memo

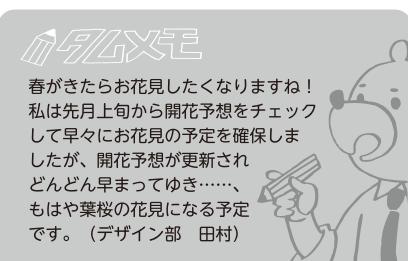
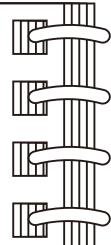
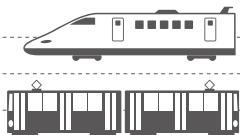
### DC デステイネーションキャンペーン

JRグループの大型観光企画(2018年4~6月)

JRグループ6社と地域が協働で取り組む国内最大規模の観光企画。

栃木県が2018年の対象地。

今年4~6月にプレDCが県内各地で展開される。



**恩師と珈琲 かつ散歩** さんぽ vol.11

卒業のこの時期、恩師に会います。デザイン科を創り育てた先生です。美術デザイン科卒業制作展と一緒に親に行ることがこの季節の恒例になりました。先生は珈琲が好きで毎日豆を挽き、布でドリップします。少し濃いめの珈琲を小さなコーヒーカップでチョコ玉と一緒にいただきます。いつまでも美味しい珈琲をご馳走してください。

「生野」(いくの)地名と「行く野」を、「踏み」と「文(ふみ)」を懸ける表の「生野の道が遠いのでもまだ天の橋立を踏んだことがありません」の意の裏に、「行く野の道が遠いので、まだ(天の橋立のほうにいる母からの)文(手紙)は見ていません」という意が含まれる。小式部内侍の母は、和泉式部。

## 4月歳時記

- 1日(土) エイプリルフール …… 起原は不明。四月馬鹿、万愚節とも
- 4日(火) 清明 …… 二十四節気、「清淨明潔」の略。清々しく明るい季節
- 7日(金) 世界保健デー …… WHO(世界保健機関)の設立を記念
- 8日(土) 花祭り …… お釈迦様の誕生日。花御堂の誕生仏に甘茶を注ぎ礼拝する
- 20日(木) 穀雨 …… 二十四節気、春雨は百穀を潤すという。種まきの好期
- 29日(土) 昭和の日 …… 激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧みる
- ・時候の挨拶 陽春の候、春暖の候 等



### 清明(4日~19日)の七十二候

「七十二候」とは、二十四節気を更に三つの時期に分けたもので、短い言葉でその時の特徴を表した、日本独自の暦。

- 「玄鳥至(つばめ、きたる)」 ツバメが海を渡って日本へやって来る。
- 「鴻雁北(こうがん、かえる)」 ツバメと入れ違いにガンガシベリアへ帰る。
- 「虹始見(にじ、はじめてあらわる)」 空気が潤い、美しい虹が見られる。